

災害対策の歩み
～東日本大震災からの12年～

宮城県ストーマケア災害対策における 宮城県医療機器販売業協会の役割

宮城県ストーマケア災害対策委員会 事務局

宮城県医療機器販売業協会 事務局長

小室 幸子

2011. 3. 11 東日本大震災発生



2011年 3 月29日 女川湾入り口付近で撮影

本日の内容

宮城県医療機器販売業協会（以下、協会）の立場から

- 協会について
- 宮城県ストーマケア災害対策委員会（以下、委員会）への参画

委員会事務局の立場から

- 設立後の活動の実際
- 今後の取り組み

協会について

宮城県内(主に仙台市)に事業所を置く、
医療機器販売業者(現在37事業所)が
加盟する任意団体。

総合商社や分野に特化した
医療機器販売業者が加盟。

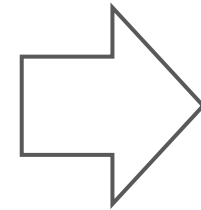


宮城県

協会の社会的使命

いつ・いかなる時も

医療機器・医療材料を安定して
医療機関にお届けする。



「安定供給」

大規模災害時においても
使命遂行に全力を尽くす。



宮城県医療機器販売業協会

MIYAGI Association of Health Industry Distributors

協会における主な災害対策

- 災害時における宮城県との協定

2010年6月 「災害時における医療機器等の確保に関する協定」締結。

- 災害時の流通システムの構築

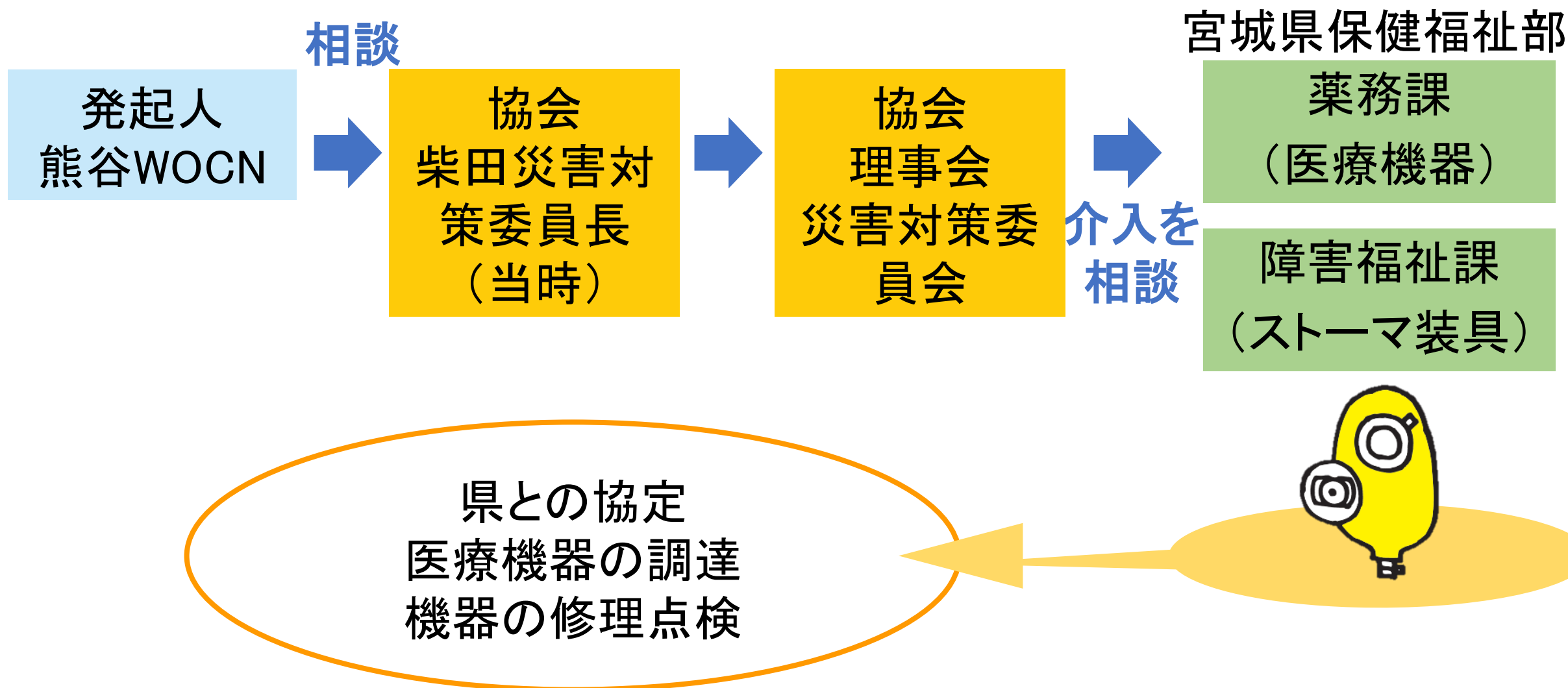
上部団体(一社)日本医療機器販売業協会の流通システムで
広域からの流通を確保。

協会員の車両(約300台)に「緊急通行車両等事前届出書」を取得し、
宮城県内の流通を確保。

協会の立場から

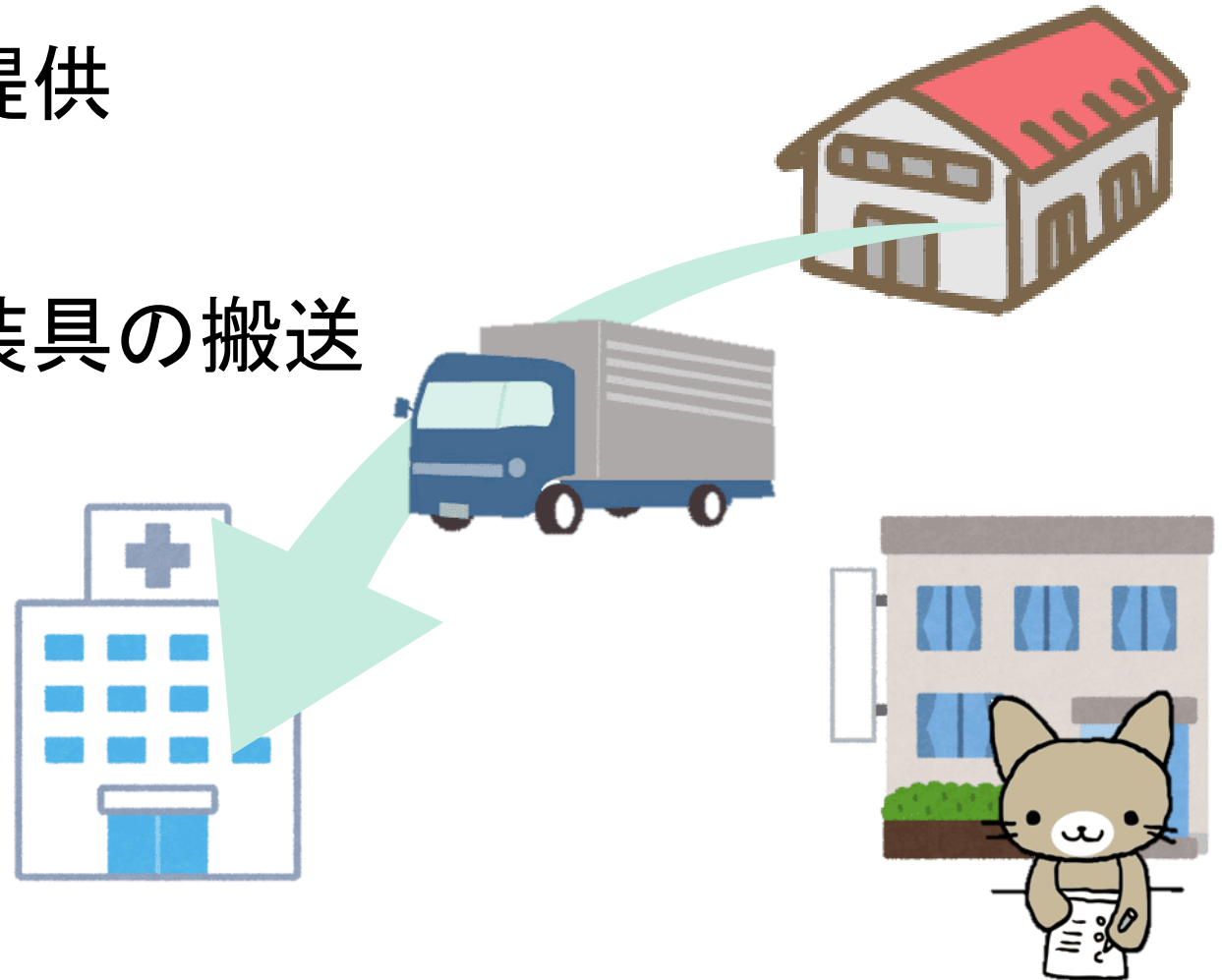
委員会への参画

ストーマ保有者への支援体制の構築



支援体制における協会の役割

- ① ストーマ支援物資集積所の提供
- ② 拠点病院へのストーマ支援装具の搬送
- ③ 委員会の事務局



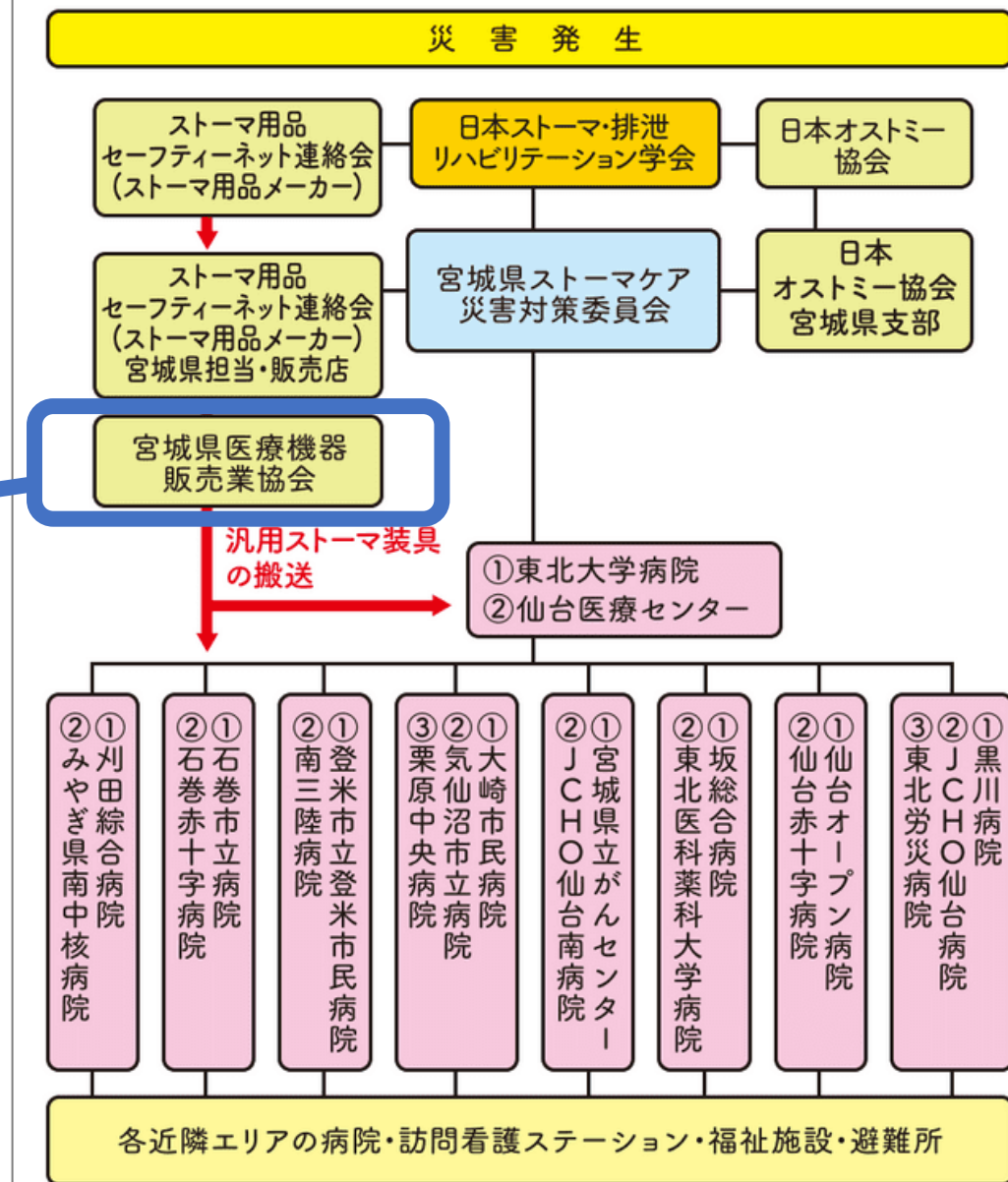
一次支援での役割

委員会
ストーマ支援物資提供決定

協会
ストーマ支援物資集積所の提供
搬送先毎に振り分け
医療施設へ搬送

※共助として実施

一次支援の全体図



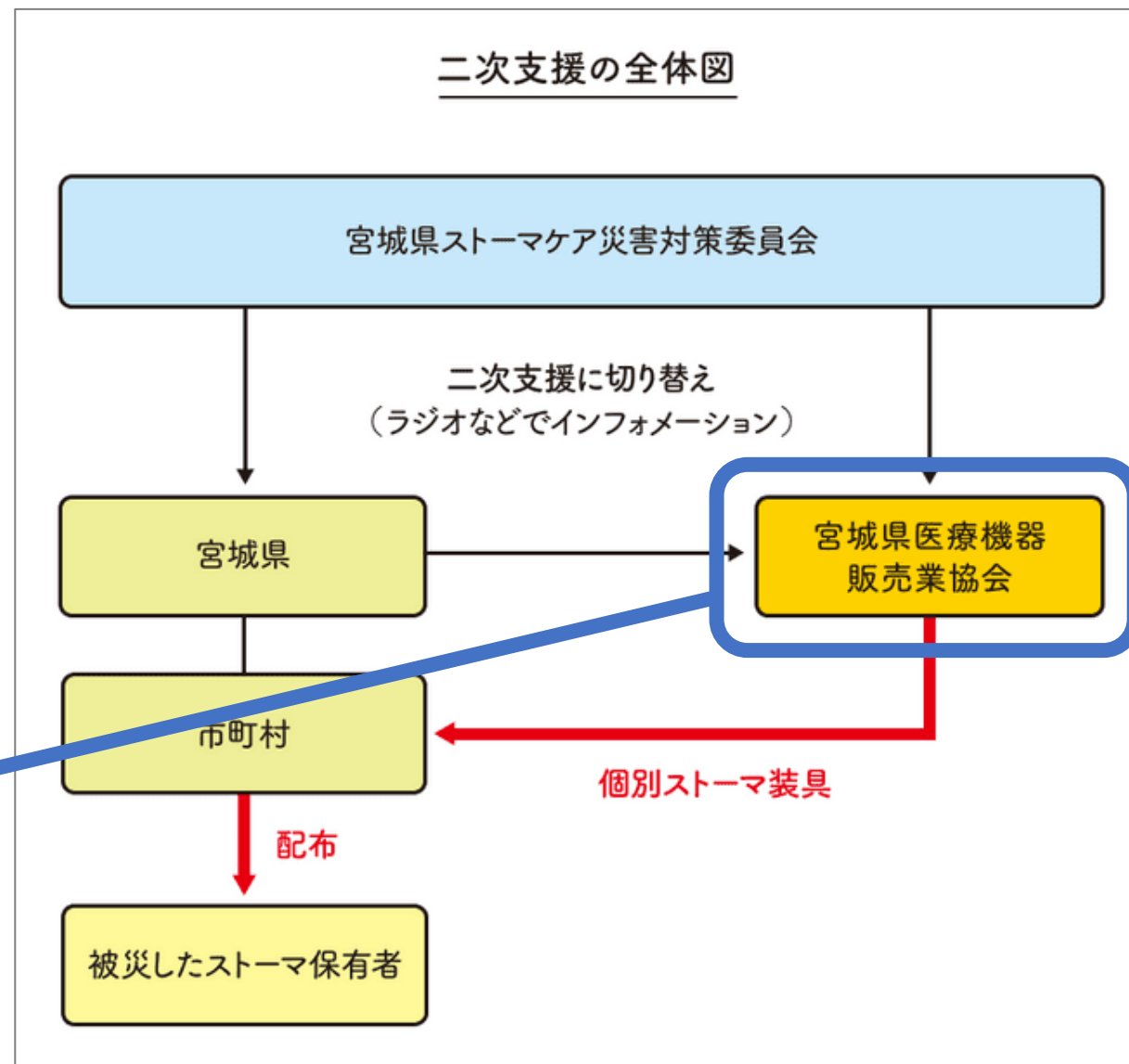
二次支援での役割

委員会
二次支援への切替決定

宮城県
災害協定下での要請

協会
要請されたストーマ装具の調達
指定された場所への搬送

※公助として実施



支援体制の詳細はJSSCRのWEBサイトを参照ください。

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
Japanese Society of Stoma and Continence Rehabilitation

リンク お問合せ サイトマップ

サイト内検索

学会について 学術情報 学芸誌・投稿査読研究 委員会活動 入会・退会・マイページ ストーマ認定について **災害対策**

災害対策

ホーム > 災害対策

JSSCR災害対策委員会の災害支援について

各位

東日本大震災から10年が経過いたしました。この災害により被害にあわれた皆さまに哀悼の意を表すとともに、各地を震源とする地震に被災された皆さまへ心よりお見舞いを申し上げます。

災害対策委員会は、東日本大震災での東北地域会員によるストーマ保有者への支援を基盤として、2014年に設置されました。学会が災害時にできることを模索し、関係団体と連携しながら災害支援と災害対策にあたっています。

全国13ブロックと都道府県の代表をつとめていただいている学会員をリーダーとして、今後も地域の災害対策を推進してまいります。引き続き、皆さまのご助力をいただければ幸いです。

2021年 3月

災害対策

- > JSSCR災害対策委員会の災害支援について
- > 地域の災害支援と災害対策活動（パワーポイント資料）
- > ストーマ用品セーフティネット連絡会災害時対応の手引き（PDF版）
- > 災害対策リーフレット（PDF版）
- > ストーマ外来の新型コロナウイルス感染症予防対策について

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ホームページへようこそ

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
Japanese Society of Stoma and Continence Rehabilitation

リンク お問合せ サイトマップ

サイト内検索

学会について 学術情報 学芸誌・投稿査読研究 委員会活動 入会・退会・マイページ ストーマ認定について **災害対策**

災害対策

ホーム > 地域の災害支援と災害対策活動

地域の災害支援と災害対策活動

災害対策

- > JSSCR災害対策委員会の災害支援について
- > 地域の災害支援と災害対策活動（パワーポイント資料）
- > ストーマ用品セーフティネット連絡会災害時対応の手引き（PDF版）
- > 災害対策リーフレット（PDF版）

宮城県におけるストーマケアに関する災害対策

令和2年7月
熊本県豪雨災害支援

平成30年7月
岡山県西日本豪雨災害支援

平成30年2月
東京ブロック災害対策活動

委員会事務局の立場から

設立後の活動の実際

構築した支援の周知

- ・ストーマ保有者(支援対象者)への周知に「マニュアル」作成。
- ・「マニュアル」配布の告知用にポスター、リーフレット作成。

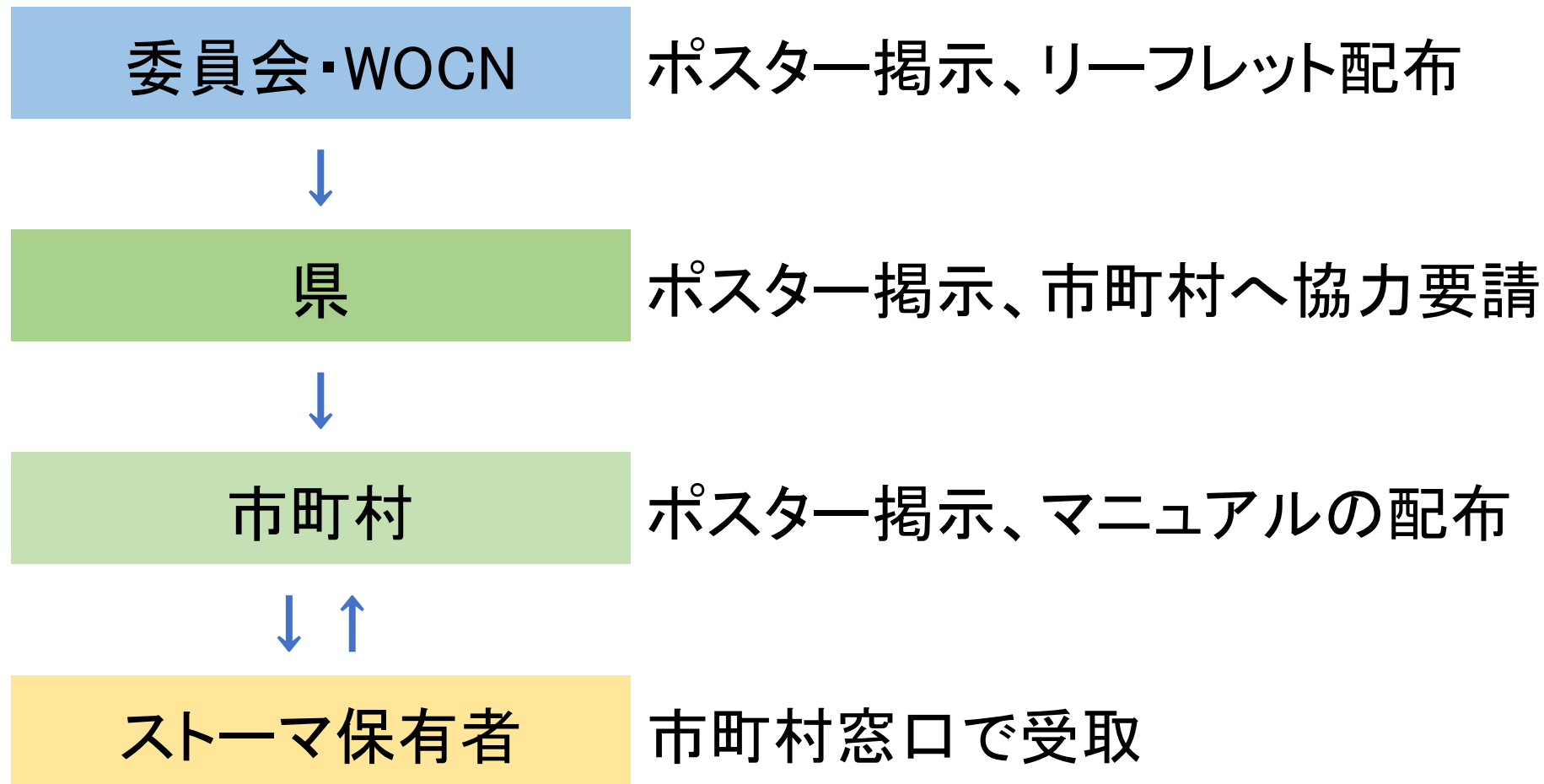


財源：寄付、広告収入、グッズ販売

マニュアルの配布方法

- マニュアルの配布窓口は市町村に設置←障害福祉課の協力。
- 事務局が各市町村・担当課へ訪問して支援内容と配布を依頼。
(35市町村)
- 2021年4月 宮城県保健福祉部障害福祉課のホームページよりダウンロードが可能。

周知の流れ



※周知の機会を多くすることでストーマ保有者が受け取れる!!

宮城県（市町村）による情報提供

ストーマ保有者

給付券手続き



市町村・県

手続きを行った人数・装具の情報



委員会事務局

情報の整理



委員会

一次支援のストーマ支援物資の数を決定

注意：ストーマ保有者用マニュアルの在庫状況、市町村での引継状況の確認

個人備蓄・分散保管の啓蒙

2

平常時の準備

\\しっかり準備しておこう！\\



2 平常時の準備

ストーマ用品の備蓄をしましょう

災害発生時はストーマ用品の入手が困難となります。普段から自分が使用しているストーマ用品は備蓄しておきましょう。

A 必ず平常時より
1か月分の
ストーマ用品を
備蓄して下さい。



B 親戚、友人宅に一部を
預けておきましょう。

C 市町村での備蓄が可能な地域は
備蓄をお願いしましょう。

4 防災チェックシート

非常用持ち出し袋チェックシート

非常用の持ち出し袋を準備しましょう。

- ☐ ストーマ装具(枚) ※あらかじめ面版に孔を開けておきましょう。
- ☐ スキンケアグッズ
- ☐ はさみ
- ☐ ゴミ袋(枚)
- ☐ ガーゼ
- ☐ ウェットティッシュ(ストーマケア用・手拭き用)
- ☐ 絆創膏
- ☐ 洗剤(水がいらないもの)
- ☐ 個別ストーマ情報シートのコピー



非常用持ち出し袋は
リュックだと便利です！



災害対策マニュアルは、非常用持ち出し袋には入れず常備するようにしましょう。

メディア掲載

「ストーマ」保有者を支援

初の災害マニキュアル

関係者ら作成

いのちと
地域を
守る

災害時に人工の肛門や
泌尿器を「ストーマ」
で治療する患者は、大
津波によって便のため
袋など装具の流失し保
有者が苦労した東日本大震
災を教訓にした。全国初
の取り組みで、14日に連
ストーマ装具の供給態勢

のマニキュアルを、県内の
医療関係者らが作った。
医師、看護師やメーカ
らによる「災害マニキュ
アル」を作成。災害発生
から5日以内（うち、初
めの1次支援）では、
2000人以上ある被災
者のうち、汎用はんぱな
の装着数十種類を被災
地に供給。メーカが県
医機器販売会協会の通
り、県内の拠点・基幹病
院20カ所に運び、保有者
に渡す。

交通インフラが復旧し
た2次支援段階では、
同協会が、保有者が平時
に使用している装具を市
町村の指定場所にする。
県が市町村から需要を確
認する。

ストーマ保有者は①

使用可能な片岸装具を着
脱時に確認。災害時の担
当病院の把握。普段使っ
た装具の1カ月分以上の備
蓄などを呼び掛ける。

マニキュアルをまとめた
冊子は市町村を通じて県内
のストーマ保有者に配
る。仙台市内で人口あつ
た関係者向け説明会で、
災害対策委員長の舟山裕
士医師は「震災時の装具
の緊急輸送ではシマッ
子があった。患者、医療
従事者、メーカ、販売
業者全てが災害に備える
必要がある」と訴えた。

作られたストーマ保有者支援のマニキュアル

ストーマ保有者の
災害対策が
新しくなりました

【写真提供】
STOMA CASH
千葉県災害対策
センター

【写真提供】
千葉県災害対策
センター

【写真提供】
千葉県災害対策
センター

河北新報(みやぎ版)
平成26年10月13日 朝刊掲載

人工肛門・膀胱災害時の支援策

装具、拠点病院通じ提供

人工肛門や人工膀胱といったストーマの保有者が災害時に支える難題を、県内の医師や看護師らが独自につくった。震災時に一部病院に被災の受け取りが集中し、どこへもいづれ、あらかじめ各施設で取りうる拠点の病院を明確にし、保有者に受け取り方法などを記した冊子を配り、周知していく。

県内独自に策定

支援策をつくらせた県ストーマケア災害対策委員会に、このため、県内で拠点となる拠点病院を協議し、別々に直接提供するため、相性の良いあつちと装具のやすさなどによって、冊子用品が揃うという。

ストーマは、病変で消化管の通路を確保して、腸の排泄は、つくられる工学的な排泄は、つくられるストーマ保有者は自分の意思で便を排泄できないため、袋状の装具をストーマに装着する。そのため、排泄物を含める器具（上）と、ストーマ保護テープのニール

装具メーカー
↓
県医療機器販売業協会
↓
拠点となる病院
(グループ)
↓
ストーマ保有者

■災害時のストーマ装具提供の流れ

①東北大病院、仙台医療センター
②黒川病院、仙台社会保険病院、東北労災病院
③仙台一病、病院、仙台赤十字病院
④坂崎合病院、東北薬科大病院
⑤県立がんセンター、JCHO仙台南病院
⑥大崎市民病院、気仙沼市立病院、栗原中央病院
⑦登米市民病院、津波川病院
⑧石巻市立病院（開設仮診療所）、石巻赤十字病院
⑨刈田総合病院、みやぎ県南中核病院

■拠点となる病院のグループ

前に決めていた病院を通じて提供す。被災した病院があれば、グループ内の別

県ストーマケア災害対策委員会が関与、医療関係者ら向けの説明会—仙台市青葉区

県内ストーマ保有者は約4千

人の病院に受け取りやケア窓口になる。被災した。保有者向けにつくった災害対策マニュアル約4千部の配布も始めた。災害時の被災の受け取り方、利用する拠点の病院を書き置き、棚、非常時に必要な持ち出し品のチェックリストなどをつけた。

震災時は、発生から1日以内にメーカーから装具が県内の病院などに提供されたが、石巻市では市立病院が被災、石巻赤十字病院は被災者の受け入れに追いつけず、相次いでストーマ保有者の対応が十分に行き届かなかった。逆に、仙台市の東北大病院には、石巻市や避難先の山形県など遠方から受け取りに来た人がいたという。

これらの経験から、医師や看護師、保有者の団体などが、災害時のケア対策を考える委員会を今年1月に発足させ、検討を進めていた。無断で決まっていた受け取り、今年11月に仙台市内で医療関係者約60人を集めて説明会が開かれた。委員によると、県内の

人、保有者に対する戸外イベント、災害支援部の菅原、支部長は「被災者が手に入りやすい態勢ができたのは、喜ばしいこと」と語った。

（桑嶋 悠）

朝日新聞(宮城県版)
平成26年10月17日 朝刊掲載

災害時の活動①

2015.4 蔵王噴火勧告

- 勧告地域のストーマ保有者への関連自治体・基幹病院WOCNの連携による支援
- 個別訪問による細やかな対応
- 支援物資の準備

2015.9 台風18号

- 浸水した病院の支援：支援物資供給
- 自治体から被災状況と対応報告
- 被災地域避難所のストーマ保有者の支援

「在庫も黄色い手帳（ストーマ保有者のための災害対策マニュアル）があるから大丈夫」との声が聞かれる。

災害時の活動②

2019.10 台風19号

- 県南地域(丸森町)町全体の浸水、県北地域(大郷町)冠水
- WOCN、販売店により避難所、訪問看護ステーションの状況確認
- 日本看護協会災害支援NSと連携し、避難所のストーマ保有者を支援
- ストーマ装具が濡れて使用できないストーマ保有者が多数 →ストーマ外来で支援
- 販売店、メーカーによる支援(サンプル・1ヵ月の無料提供)

災害時の活動③

2021.2

福島・宮城県沖地震

- 断水(塩釜市・多賀城市)
→塩竈地区WOCN対応
販売店、ストーマメーカーにスキンケア用品
の協力を得る。

2022.3 福島県沖地震

- 被害確認なし

2022.7 宮城県豪雨

- ストーマ装具が濡れて使用できないストーマ
保有者へ販売店、メーカーによる支援(1ヵ月
の無料提供)

委員会の成果はJSSCRのWEBサイトを参照ください。



災害時の活動のまとめ

WOCN

- ・ 委員会と連携した情報収集
- ・ ストーマ保有者へのきめ細やかな支援

自治体

- ・ 委員会に被害情報の提供

販売店

- ・ 委員会の指示でストーマ保有者への被害確認
- ・ ストーマ保有者へのストーマ支援物資の調達・運搬

これまで調達・運搬を行った災害は、水害による装具の浸水である。
→分散保管をすることで安心につながる。

委員会事務局の立場から

今後の取り組み

今後の取り組み

1. 自治体への周知の継続。
2. 委員会活動のサポート。
 - ・一次支援のストーマ支援物資数を決定するための情報収集・更新
 - ・委員会・WGの連絡先の情報更新
 - ・委員長、副委員長が円滑に活動できるようサポート
3. 継続的な支援のための資金調達。
4. ストーマ保有者への周知と共に一般への広報を検討。
5. 販売店への協力を要請。
 - ・ストーマ保有者へ備蓄・分散保管の周知
 - ・一時ストーマ保有者に対しての防災意識の強化
 - ・WOCNのいない医療施設への周知

